

Vincent Ong

Piano Recital



ヴィンセント・オン ピアノ・リサイタル

2026年2月5日(木) 19:00開演
浜離宮朝日ホール 音楽ホール

7:00p.m., Thursday, February 5, 2026 at Hamarikyu Asahi Hall Music Hall

主催：ジャパン・アーツ

おかげさまで50年
JAPAN ARTS

Program

<オール・ショパン・プログラム> All Chopin Program

幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61

Polonaise-fantaisie in A-flat major, Op.61

24のプレリュード Op.28

第1番:ハ長調	アジタート
第2番:イ短調	レント
第3番:ト長調	ヴィヴァーチェ
第4番:ホ短調	ラルゴ
第5番:ニ長調	アレグロ・モルト
第6番:ロ短調	レント・アッサイ
第7番:イ長調	アンダンティーノ
第8番:嬰ヘ短調	モルト・アジタート
第9番:ホ長調	ラルゴ
第10番:嬰ハ短調	アレグロ・モルト
第11番:ロ長調	ヴィヴァーチェ
第12番:嬰ト短調	プレスト
第13番:嬰ヘ長調	レント
第14番:変ホ短調	アレグロ
第15番:変ニ長調	ソステヌート
第16番:変ロ短調	プレスト・コン・フォーコ
第17番:変イ長調	アレグレット
第18番:ヘ短調	モルト・アレグロ
第19番:変ホ長調	ヴィヴァーチェ
第20番:ハ短調	ラルゴ
第21番:変ロ長調	カンタービレ
第22番:ト短調	モルト・アジタート
第23番:ヘ長調	モデラート
第24番:ニ短調	アレグロ・アパッシオナート

24 Preludes, Op.28

C major	Agitato
A minor	Lento
G major	Vivace
E minor	Largo
D major	Allegro molto
B minor	Lento assai
A major	Andantino
F-sharp minor	Molto agitato
E major	Largo
C-sharp minor	Allegro molto
B major	Vivace
G-sharp minor	Presto
F-sharp major	Lento
E-flat minor	Allegro
D-flat major	Sostenuto
B-flat minor	Presto con fuoco
A-flat major	Allegretto
F minor	Molto allegro
E-flat major	Vivace
C minor	Largo
B-flat major	Cantabile
G minor	Molto agitato
F major	Moderato
D minor	Allegro apassionato

* * *

ノクターン第17番 ロ長調 Op.62-1

Nocturne No. 17 in B major, Op.62-1

ノクターン第18番 ホ長調 Op.62-2

Nocturne No.18 in E major, Op.62-2

ピアノ・ソナタ第3番 ロ短調 Op.58

第1楽章:アレグロ・マエストoso
第2楽章:“スケルツォ”、モルト・ヴィヴァーチェ
第3楽章:ラルゴ
第4楽章:“フィナーレ”、プレスト・ノン・タント

Piano Sonata No.3 in B minor, Op.58

1st Mov.: Allegro maestoso
2nd Mov.: "Scherzo". Molto vivace
3rd Mov.: Largo
4th Mov.: "Finale". Presto non tanto

Profile



©W. Grzędziński / NIFC

ヴィンセント・オン (ピアノ)
Vincent Ong, Piano

2001年マレーシア生まれ。4歳でピアノを始め、ピアニスト・作曲家のン・チョン・リムのもとで学びはじめる。2024年に第19回シーマン国際コンクールで第1位を受賞。

2025年 第19回ショパン国際ピアノコンクールで一躍世界的注目を集め、第5位入賞、および聴衆賞第2位に輝いた。

2023年に母国マレーシアを離れ、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でエルダー・ネボルシンに師事。ほかに、これまでエリザベート・レオンスカヤ、ナターリア・トゥルル、ボリス・ベルマン、エリソ・ヴィルサラーゼ、キリル・ゲルシュタインといった著名な音楽家たちの教えを受けている。

最初のコンクールでの成功は2018年の台北の国際マエストロ・ピアノ・フェスティヴァルでの優勝。2020年にはシンガポール国際ピアノコンクールで入賞した。2023年にモーリス・ラヴェル記念ピアノ奨励賞受賞。2025年にフランスのノアン・ショパン音楽祭へ招待され出演。

ハンス・アイスラー大学のルチア・ローザー財団、およびスイスのクラヴァルテ財団の奨学生であり、ウイーンのリーヴェン国際ピアノ財団のメンバーでもある。

バッハからショパン、リゲティに至るレパートリーにおいて、ヴィンセント・オンは知的な深みと詩的な表現を融合させる。彼の芸術性は、天賦の音楽的センスに加え、作曲や即興演奏への情熱、そしてピアノ技術への尽きぬ探求心によっても形作られている。



Vincent Ong

ヴィンセント・オンピアノ・リサイタル “握手から始まった世界へのステージ”

下田幸二（音楽評論家・ピアニスト）

「レツ・ウェルカム、ヴィンセント・オン！」

2025年10月7日、第19回ショパン国際ピアノ・コンクール第1次予選のステージに現れた彼は、女性プレゼンターに柔らかく手を差し伸べ、自然な笑みで握手を交わした。張りつめていた会場の空気がふっと和らぐ。小さなプラヴォーまで聴こえた。この一瞬が、ヴィンセント・オンという名が世界に広がっていく入口だった。

「あのときは、プログラムを読みあげてくれたことへのお礼を伝えるのが自然だと感じたのです（笑）。クラシック音楽は、マレーシアではまだ広く親しまれているとは言えません。でも故郷ペナンでは、子どもがピアノを習うのは珍しくありません。私は4歳で、兄の影響で始めました。ヤマハに通い、ABRSM（英国グレード）で学び、その後ドイツに留学しました」

ヴィンセント・オンの名は、シーマン国際コンクール（ツヴィッカウ）の2024年の覇者としては識っていた。しかし生で聴いたのはワルシャワが初めてである。ノクターンOp.62-2、エチュードOp.10-2、幻想曲、ワルツOp.42という4曲で示された資質は鮮烈だった。息の長いカンタービレ、音楽の論理性と即興性の共存、無理のない奏法、高い集中力、そして確信に満ちた構成。聴衆の心を確実につかむ演奏で、私の最初のメモにはこう走り書きがある。

「才能あり。素晴らしい！」

結果、彼は本選まで進み、第5位入賞者となった。

「受賞はいまでも正直、『自分が?』という気持ちです。私は国の人たちがこのニュースを誇りに感じてくれたなら、本当に嬉しいです」

マレーシア人として初の本大会出場者であり、同時に入賞者となったヴィンセント・オン。彼の未来は限りなく輝いている。あの第1次予選のステージでの穏やかな握手は、世界への扉を開いたのである。

【曲目解説】

ショパン（1810～1849）：

幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61

1845～46年に作曲されたこの作品は、冒頭の拡張された和声からまさに幻想的である。5つの主要主題が循環形式を背景に現れ、デフォルメされた3部形式で壮大に展開する。美しい旋律と半音階的なフィギュレーション、時折おぼろげに聴こえてくるポロネーズのリズム…すべては「幻想」に貢献する。そして、最後に枷が外れたかのような転調を伴って、絶大なエネルギーで奏される中心主題の再現は、祖国ポーランドの再興を願うショパンの魂の叫びである。

24のプレリュード Op.28

ショパンとジョルジュ・サンド…。パリ社交界のゴシップとなった二人は、1838年10月に地中海の島マヨルカへ「愛の逃避行」をした。当初は快適な旅だったが、後に待っていたのは雨季の陰鬱であった。しかし、それは結果的に本作品の誕生に一役かうことになる。象徴的なのは、「ショパンは、屋根に落ちる雨だれの音の中で、涙を流しながら素晴らしいプレリュードを弾いていた」というヴァルデモサ僧院でのサンドの回想=通称「雨だれ」である。

作品がまとめられたのは1838～39年である。全24曲は、24の調性を網羅する。バッハ《平均律クラヴィーア曲集》への敬意は明らかだが、配列はハ長調→イ短調→ト長調→ホ短調…と平行調を軸に五度圏を巡り、作品が進むほど響きの陰影が深まっていく。

曲は、第1番ハ長調のバッハへの敬意が感じられる対位法的な幕開きから、第24番ニ短調の神聖で激烈なエネルギーまで連続して奏される。「零（しづく）」のような抒情、葬列のような重み、マズルカ的な素朴さ、超絶技巧の閃光が連なり、全体が見事な有機性で結ばれている。

ノクターン第17番 ハ長調 Op.62-1 / 第18番 ホ長調 Op.62-2

『2つのノクターン作品62』として1846年に作曲された晩年の名品で、ショパン存命中に刊行された最後のノクターン。

Op.62-1は、雄大なアルペッジョに始まり、対位法と和声の均衡の中で、人生の悟りさえ感じさせる旋律が歌い継がれる。ソステヌートの中間部を経て、トrilを伴って戻る主題の美しさは奇跡と言っても過言ではない。

Op.62-2は語りかけるような主題に続き、左手の細かな波間から、さらに柔らかな第2の主題が浮かび上がる。中間部アジーターの葛藤と、後半の対位法的書法の充実を経て、慈愛に満ちた終結へいたる。

ピアノ・ソナタ第3番 ハ短調 Op.58

ショパンの独奏曲中最大の作品。1844年の作曲で、この年のショパンは、健康的に優れず、春には父ニコラが他界したこともある、心身ともに虚脱状態であった。しかし、姉ルドヴィカとの14年ぶりの再会で生気を取り戻し、この傑作が生まれた。

4つの楽章が循環形式を基に各主題、動機が全曲を通して隠し絵のように微細に結びつき、壮大な聴き応えとなっている。

第1楽章：アレグロ・マエストロ

確固たるソナタ形式。ハ短調。決然とした第1主題とアリアのごとき第2主題が好対照をなす。力強い技巧と主題操作の展開部を経て、再現部は第2主題への導入から始まり、最後は第1主題の残照をコーダとして楽章を引き締めている。

第2楽章：“スケルツォ” モルト・ヴィヴァーチュ

軽やかで明るい3部形式。変ホ長調。本来の意味のスケルツォらしい楽章である。また、甘美な中間部トリフォと時折見せる不安は、揺れる乙女心のようだ。

第3楽章：ラルゴ

第2楽章からエンハーモニックでスムーズに連結される。3部形式。ハ長調。淡々とした伴奏にのったカンタービレが美しい。中間部は、夢の中にいるような浮遊感を生む。

第4楽章：“フィナーレ” プレスト・ノン・タント

疾風のロンド。ハ短調。反復されるたびに膨張するロンド主題がコーダへなだれ込み、勝利のアコードを宣して全曲を締めくくる。

ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、
心より感謝申し上げます。

これからも引き続き変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひします。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

◆◆◆◆◆ 2025年度ご支援いただいた皆さま ◆◆◆◆◆

＜年間サポート＞

【個人センター】

朝妻 幸雄 天野 雅子 伊藤 直美 M.I. 岩村 和央 K.U. 上村 憲裕 内永 太洋 榎本 英二 Y.E. K.O.
大原 志津子 片山 由美子 K.K. 神田 尚子 北村 真 工藤 章子 小林 真希子 R.K. 相良 延利 新貝 康司
鈴木 忠明 M.T. R.T. 武田 健二 伊達 朱実 田中 治郎 東條 Lilly K.T. トゥルーラブ 真智子 苦米地 英人
K.N. 中村 京子 E.N. 児子 弥生 S.N. 長谷川 智子 A.H. T.H. 桶口 美枝子 M.H. 平山 美由紀 藤野 盾臣
細沼 康子 堀之内 優子 M.H. 松尾 芳樹 E.M. K.M. 真野 美千代 三木谷 晴子 水野 靖彦 安田 牧子
山川 和子 山崎 明日香 横谷 雅子 Akiko Yoshikawa Y.Y
(匿名希望 24名)

【法人センター】

三和プリントイング株式会社 株式会社 青林堂
三井住友カード株式会社 ロイヤルリゾート株式会社
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント きづきアセット株式会社
株式会社ロジックアンドエモーション ライフプラン株式会社

＜館野泉バースデープロジェクト「みんなで祝おう！卒寿記念コンサート」＞

天野 雅子 池戸 真理子 一柳 吉子 稲垣 美晴 えこ 上原 洋子 植村 月枝 岡村 茉莉奈 木全 恵美子
CATHERINE CATES 久間 和子 久保 春代 坂井 和 佐々木 晓子 澤井 みのり スオミ・ビアノ・スクール研究会 鈴木 早苗
高橋 理都子 田邊 英利子 照井 はるみ K.T. 中村 康江 日本シベリウス協会 橋本 利明 服部 喜恵子 林 幸仁 原田 君代
平山 美由紀 福田 誠 藤澤 ふさ子 真野 美千代 丸山 康 安田 牧子 湯本 早百合 H.W.
館野泉ファンクラブ 館野泉ファンクラブ九州 館野泉ファンクラブ北海道 タビオラの会
(匿名希望 4名)

【法人センター】

ミサワホーム株式会社 日本エルト株式会社
AGCグラスプロダクツ株式会社 三和シャッター工業株式会社 株式会社スルガ
DAIKEN株式会社 ニチハ株式会社 株式会社 LIXIL
エイベックス・クラシックス・インターナショナル株式会社 株式会社オクタヴィア・レコード ヤマハ株式会社

＜ウィーン少年合唱団 オフトイム・サポート＞

石坂 雅美 K.I. K.K. Y.K. 佐久間 隆弥 Rimiko N.S. 竹内 麻里子 中尾 圭吾 T.H. 桶口 美枝子 K.F.
細沼 康子 M.H. M.M. 水足 久美子 水足 秀一郎 口口コミ
(匿名希望 11名)

＜ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート＞

江田 明子 T.O. K.K. 佐久間 隆弥 Rimiko M.T. 平山 美由紀 細沼 康子 M.M. 柳瀬 美佐子 口口コミ
(匿名希望 9名)

＜千住真理子に「花を贈ろう！」プロジェクト＞

石坂 雅美 北村 真 城戸 健二 桑原 仁志 小森 桂子 佐藤 亨 田中 治郎 H.H. 道又 利 村上 晃彦 横田 邦子
(匿名希望 7名)

2026年1月22日現在 敬称略

お知らせ

現在2025年度年間サポートを受付中です。詳細は、ジャパン・アーツの公式WEBサイトおよび公演チラシ挟み込みの申込用紙等をご覧ください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 TEL.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)